

## 年金業務・組織再生会議（第1回）議事要旨

1 日時 平成19年8月23日（木）10:00～12:00

2 場所 総理官邸3階南会議室

3 出席者

（委員・50音順、敬称略）

岩瀬達哉、大山永昭、岸井成格、小嶋典明、斉藤聖美、八田達夫、本田勝彦

（政府）

渡辺喜美行政改革担当大臣、林芳正内閣府副大臣、岡下信子内閣府大臣政務官、坂篤郎内閣官房副長官補、福井良次行政改革推進本部事務局長、江澤岸生行政改革推進本部事務局次長、加瀬徳幸行政改革推進本部事務局参事官、長田行政改革推進本部事務局企画官

4 議事次第

開会

渡辺行政改革担当大臣、林内閣府副大臣、岡下内閣府大臣政務官挨拶

委員紹介、座長選任

会議の運営について

社会保険庁改革の概要等について

自由討議

会議の今後の進め方について

閉会

5 議事の経過

冒頭、渡辺行政改革担当大臣、林内閣府副大臣、岡下内閣府大臣政務官の挨拶の後、委員の紹介が行われた。

渡辺行政改革担当大臣の挨拶において、当会議は、社会保険庁という組織を廃止・解体し、新たな組織として日本年金機構を設立するためのものであり、委員の皆様の意見を最大限に尊重し、基本計画に反映させていきたいので、活発な議論をお願いしたい等が述べられた。

委員の互選により、本田勝彦委員が座長に選任された後、座長の指名により、岸井成格委員が座長代理に選任された。

会議の運営について、会議の議事の公開の在り方が議論され、以下のようにすることとなった。

- ・ 会議の内容については、原則公開していく。

- ・ 会議自体は、当面は公開しないこととし、会議後に座長による記者ブリーフィングを行う。
- ・ 会議の配付資料は原則公開する。議事要旨は速やかに公開する。議事録は原則公開する。
- ・ 今後、議論のテーマの内容や、当面の議論の経過により公開に支障がないと判断される場合、公開することにより議論が促進されると判断される場合には、柔軟に取扱いを見直していくことを確認した。
- ・ 上記の議論を踏まえ、運営要領については座長に一任する。

事務局から資料説明を行った後、自由討議が行われた。委員の主な意見は、以下のとおり。

- ・ 日本年金機構が担うことになる年金業務は、とても大事なものである。そのため、採用の基準は重要であるが、採用された後の人事制度なども大切である。日本年金機構で働く職員が、意欲やモラル、使命感を持てるような組織にすることが基本であり、そのための議論を行っていききたい。
- ・ 採用基準づくりは難しいが、やる気のある人を集めることができる公正・公平な基準づくりが必要である。看板の掛け替えとなることのないよう、やる気のある人には、やりがいをもって頑張ってもらう必要がある。
- ・ 社会保険庁が日本年金機構になることにより、新組織に採用されない人も出てくると思うが、そのような人たちをどうするかも大切な問題である。
- ・ 社会保険庁には、職員の4割を占める非常勤職員がいる。これらの非常勤職員のことについてもしっかりと考えていくことが重要である。
- ・ 機械ができるような仕事は、いつまでも職員にさせるべきでない。システム化を進めるとともに、職員にはもっと別の仕事をしてもらって、無駄を省いた組織づくりをしていくことが大切である。
- ・ レガシーといわれる社会保険庁のシステム見直しが行われているが、年金給付システムについても刷新可能性調査を早急にすべきと考える。また、別法人となる全国健康保険協会との関係では、適用・徴収業務は引続き日本年金機構が担うことになるが、全国健康保険協会と日本年金機構とでシステムが別々になる見込みであり、両システムのネットワーク化にも配慮すべきと考える。
- ・ 年金業務の切分けや採用の問題のほかに、現在社会保険庁にぶら下がっている色々な法人についても、議論していくことが必要である。

今後の運営については、9月末を目標に「職員の採用についての基本的な事項」を中間整理することとし、次回開催は8月30日（木）9時からとされた。

<文責：行政改革推進本部事務局（速報のため事後修正の可能性あり）>